



那賀町立相生小学校

あいおい

令和5年度学校便り

N0.33

2024.2.9発行

発行責任者

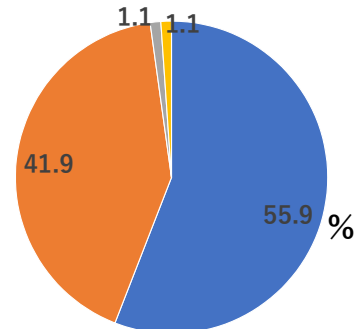
谷 多美子

防災プログラム(家庭教育研修)

能登半島地震から一ヶ月をむかえた2月1日(木)那賀町社会福祉協議会、那賀町防災士の皆様を講師に「防災プログラム」による家庭教育研修を開催しました。計画的な防災教育の成果が右の児童アンケートにみられます。今後は、災害発生時から、保護者への確実な引き渡し、避難所生活、生活再建など地域、家庭、学校が一体となって対策を考えていきたいと思ひます。

⑭安全や防災の学習を思い出し、命を守る行動ができる。

NO.3



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない



社会福祉協議会、防災士のみなさんが教えてくれました。



低体温症につながる床の冷たさを体感しています。



4年生が既習したことをいかして3年生と組み立てました。



テントの組み立て方の説明を聞いた後、親子の協力で、あっという間に6つのテントが設営されました。



トイレ用のテントも組み立て、完成です。



体育館が避難所になったときがイメージできます。



地域の大人と子どもによる避難所設営は「共助」の第一歩です。

寒い中ご参加いただきありがとうございました。また、アンケートにたくさんの方にご協力いただきました。裏面にいただいた感想を掲載させていただきました。家庭で災害に備えることと合わせて、つながりながら物心共に準備を整える大切さを感じました。

保護者の方の感想より

- ・児童が楽しみながら学んでいる様子が印象的でした。学びが多かったのではないかと思います。
- ・地震はいつ起きるかわからないので、すごく勉強になりました。
- ・那賀町は津波の心配も無く私も防災への意識が薄かったと思いますがこれをきっかけに防災グッズなども用意しておきたいと思いました。ダンボールベットはとてもしっかりしていて座ったり横になったりとても良く出来ています。家に帰って子どもと簡単にできてすごいな!と話しました。今の生活がどれだけありがたいのか考えるきっかけにもなりました。
- ・実際に避難所で準備物を組立てる経験をさせていただき、特にダンボールベットはどんなものかを知らなかったので勉強になりました。もしものことを家でも話しておかないと痛感しました。
- ・実際にテントやベッド、トイレを作る体験をさせてもらって、何か災害があった時に活かせるの良いなと思います。
- ・実際にトイレやベッド、テントなどを作って体験できたことは良い経験になったと思います。
- ・ダンボールで強度のある簡易ベッドが作れたり、トイレ事情や、プライバシーを守るテントの役割など知らなかったことをたくさん知れました。実際に一緒に組み立ててみたり体験することができよかったです。
- ・トイレ専用のテントを初めて見ました。キャンプ用品を揃えておくと、もしも被災したら役立つと思いました。
- ・よかったと思う。
- ・いざという時のためにいろいろなアイテムがあることがしれて良かった。
- ・いつ起こるかわからない災害に備えて、避難所設営の体験ができたことはよかったと思います。家庭でも防災バッグの備えなど子どもたちと一緒に確認しながら準備しておかないといけないと改めて感じました。
- ・実際に体験することができてよかったです。

※防災の授業を行った学年の感想より

- ・実技を伴った学習で実用的な内容で災害の時に役立つのではないかと思います。
- ・防災について下学年でも分かりやすいようにクイズにして楽しみながら学んでいる様子が良かったと思います。
- ・年明けの地震、県外にいたので子ども自身も実際の揺れを初めて体験し、思ったより揺れたので怖がっていました。その日から毎日被災地の映像をテレビで流れるのを見ながら過ごしていたので今回の授業では、実際に考えたり、子ども達も色々知れ、今後のためにもなって良かったと思いました。